

板橋区立志村小・志村第四中学校

改築に関する地域提言書

令和4年5月

志村小・志村四中 小中一貫型学校設置検討会

# 目次

はじめに .....	1
I 改築基本構想・基本計画に関する提言のまとめ .....	2
II 改築基本構想・基本計画に関する提言 .....	5
(1) - 1 地域が学校とどの様に関わりたいか .....	5
(1) - 2 どんな学校をつくりたいか .....	8
(2) 学校の配置について .....	1 1
(3) - 1 地域と学校が連携・協働する部屋 .....	1 4
(3) - 2 地域連携・協働ゾーンの配置・校地の利用 .....	1 5
III 参考資料 .....	1 7
(1) 敷地条件の整理（基本構想・基本計画策定支援事業者による整理） .....	1 7
(2) 活動経過 .....	2 0
(3) ワークショップの様子 .....	2 1

はじめに

「志村小・志村四中 小中一貫型学校設置検討会（以下、設置検討会）」は、志村小学校と志村第四中学校のPTA、同窓会、町会、地域コーディネーター、学校関係者、地域のまちづくり団体等によって構成される組織です。

設置検討会は、志村小学校と志村第四中学校の小中一貫型学校の運営に向けた円滑な準備を計画的に行うことを目的として、令和3年2月に発足しました。

これまで設置検討会では、通学区域や学校の伝統・歴史の保存、校名等について協議をおこなってきました。また、志村小学校と志村第四中学校の小中一貫型学校の改築に向けた基本構想・基本計画の策定着手に伴い、地域としての整備目標をワークショップ形式により、意見交換をおこなってきました。

この度、ワークショップや設置検討会の中で出された要望をまとめた施設整備に関連する提言書がまとまりましたので、板橋区教育委員会事務局に提言します。

本提言書を今後の基本構想・基本計画の策定、設計に活用していただき、新しい志村小学校・志村第四中学校がこれまで以上に地域と連携・協働し、児童・生徒・地域に安心・安全を与え、地域とともに発展することを願っています。

志村小・志村四中 小中一貫型学校設置検討会

## I. 志村小・志村第四中学校の基本構想・基本計画に関する提言のまとめ

### (1) 第一回ワークショップ

「地域が学校にどの様に関わりたいか、どんな学校を作りたいか」をテーマにワークショップ形式で意見交換を実施。

#### (1) -1 地域が学校にどの様に関わりたいか

##### [地域交流について]

- ・ 地域住民の学習支援の場として、竹細工や老人会での輪投げなど地域の大人が積極的に子供たちに教える機会が重要。
- ・ 保護者を集めた交流会やおやじの会（保護者会）の活動が活発な地域なので、学校行事の観覧や授業参観など地域住民の学校利用しやすい施設が必要。
- ・ 卒業後も学校へ行くきっかけとして、スポーツなどで学校施設の一部開放が必要。

##### [立ち寄ってみたいくなる学校（施設・環境）]

- ・ 学校の雰囲気や中の様子が分かる誰もが使いやすい学校。
- ・ 地域/子ども/教員が交流する場所として、地域のコミュニティスペースがある学校。
- ・ 周辺に図書館がないので、地域図書館と複合化した学校。
- ・ 授業参観しやすい教室まわりとして、廊下と教室間をオープンにできる扉や、オープンスペースのある学校。
- ・ 地域との連携などの活動状況が見える地域の顔となる学校。

##### [地域と連携した活動ができる学校（地域活動・防災）]

- ・ 現在、生徒が行っている学校周辺の清掃活動を商店街と連携するなど、地域ぐるみの活動を生み出し、促進する機能を持った学校。
- ・ 防災に対する意識が高い地域であるため、防災拠点としてハードだけでなく、児童・生徒・地域合同の防災訓練等ソフト面の連携ができる学校。

#### (1) -2 どんな学校を作りたいか

##### [子どもが通いたくなる学校（まなび・空間）]

- ・ 小学校用、中学校用とするだけでなく、すべての児童・生徒にとって、多様な居場所や相談できる場所を校舎の屋内や屋外にも用意できる学校づくりが必要。
- ・ 机に向かうだけでなく体験型の学び（ビオトープ・畑等）の環境の整備。
- ・ 空間を有効活用し、児童・生徒1人あたりの面積を大きくし、可変性のある学習環境の整備。

##### [子どもを通わせたいくなる学校（安心安全・防犯）]

- ・ 小中学生で体格差があるので、校庭での安全性や動線が重ならない配慮が必要。
- ・ 開放感や視線の抜けがある学校。
- ・ 死角を作らない空間づくりをすることで、いじめ対策 No1 をめざした学校。
- ・ 先生が働きやすく子どもたちに対応しやすい環境の整備。
- ・ 遊び場をはじめとする学童保育施設部分の配置は、とくに安全面での配慮が必要。

##### [学校で残したいもの・大事にしたいもの（文化・歴史）]

- ・ 学校周辺の清掃などの文化。
- ・ 泰山木や記念樹、門の校章など、モニュメントの展示スペースの設置。
- ・ 卒業生や地域住民とのつながりを大事にするため、歴史のアーカイブ化やVRでの校舎再現など学校や地域の歴史を残す方法の検討が必要。



## (2) 第二回ワークショップ

「建物配置を考えてみよう」をテーマに、計画地の法的条件や道路付け条件から考えられる以下のAからCの3案に対して、「よいところ」「気になるところ」などについて意見交換を実施。

【A案】敷地北側配置案(6階建て程度)

【B案】敷地南側配置案(6階建て程度)

【C案】敷地南側配置案(7階建て程度)

### 学校の配置について

#### <意見のまとめ>

校舎の配置については、校庭と広場の大小2つの屋外活動スペースが確保でき、新校舎建設期間中も今の校舎を使えるC案に良好な意見が多かった。

A案の良さとしては、新校舎がメイン道路である北側道路に近いことで、地域連携の活動状況などの学校機能を地域へ見える化しやすく「地域の顔」になれることや、「学校の顔」となる昇降口がわかりやすいとの意見があった。

3案共通の意見として多かったことは、西側住宅への日影の影響を配慮し、西側に配置する建物はできるだけ高さを抑えることや、校舎からの視線対策、地階設置などの低層化の検討があった。

#### [学校の配置について]

- 校庭での安全性や動線が重ならない配慮として大小2つの屋外活動スペースを確保。
- 工事期間中も、できるだけ通常時の教育環境に近づけるよう、運動場所の確保などに配慮。
- 西側住宅へ日影が大きくなるよう、建物西側はできるだけ高さを抑えるなどの配慮。
- 校舎からの視線対策について検討。
- 地階設置など低層化の検討。
- 「地域の顔」となれるよう、学校機能の見える化を意識。
- 昇降口へのアプローチのしやすさに配慮。

### (3) 第三回ワークショップ

「地域開放ゾーン・地域連携ゾーン・学校運営ゾーンの配置とアプローチを考えよう」をテーマに、「地域開放・地域連携したい部屋は?」、「学校の顔(入口)はどこに配置するのが良いのか?」、「地域連携・協働ゾーンへの動線は?」、「避難所として体育館の配置はどの階が良いのか?」について意見交換を実施。意見交換をしやすいよう、第2回ワークショップにて良好な意見が多かった配置C案を改善した案をベースに、平面ゾーニング案(下記イ案・ロ案)にて意見交換をおこなった。

【イ案】校舎西側中央アプローチ案

【ロ案】校舎北側アプローチ案

#### (3) -1 地域と学校が連携・協働すべき室

##### [地域と学校が連携・協働すべき室について]

- ・「板橋区立学校施設標準設計指針」にて挙げられている室に加えて、音楽室についても検討し、地域開放する場合は、近隣への音の影響にも配慮が必要。
- ・放課後に部活動などで使用のない室については、地域開放できる可能性があるため配置に配慮が必要。
- ・地域と連携・協働を行う室及びスペースは、低層階に配置するなどのアクセス面に配慮が必要。
- ・現状、陶芸小屋を地域で利用しているので、設置場所含め配慮が必要。

#### (3) -2 地域連携・協働ゾーンの配置と校地の利用

##### [地域開放・地域連携について]

- ・地域開放・地域連携ゾーンを1階に配置するなどし、非開放ゾーンとのセキュリティを明確に分けるような検討が必要。
- ・小学校の音楽室を低層階に設置し、盆踊りの太鼓の練習など地域活動にも利用できるよう検討が必要。

##### [アプローチについて]

- ・児童・生徒が登下校する門は東西2か所必要。
- ・災害時やイベント開催時を考慮して、北側道路から校庭への搬入用の門が必要であるが、セキュリティに十分配慮した検討が必要。
- ・子どもが多くなるので、昇降口は小中学校用に分ける必要があると考える。学校側の考えも踏まえ、昇降口の大きさや配置を含め検討が必要。
- ・地域連携ゾーンは、正門と近く、校庭などの屋外活動スペースと連携しやすい配置とする検討が必要。
- ・災害時開放される部分は、校庭と連携が取りやすい配置とする検討が必要。

##### [避難所として体育館の配置について]

- ・浸水想定高さが3~5mとなるため、2階以上での配置の検討が必要。
- ・車椅子利用者等の移動に対応できるよう、エレベーターを設置し、日常の運用方法を含め総合的な検討が必要。
- ・学校機能と避難所機能は明確に分けられるよう配慮が必要。

## Ⅱ. 志村小・志村第四中学校の基本構想・基本計画に関する提言

### (1) 第一回ワークショップ

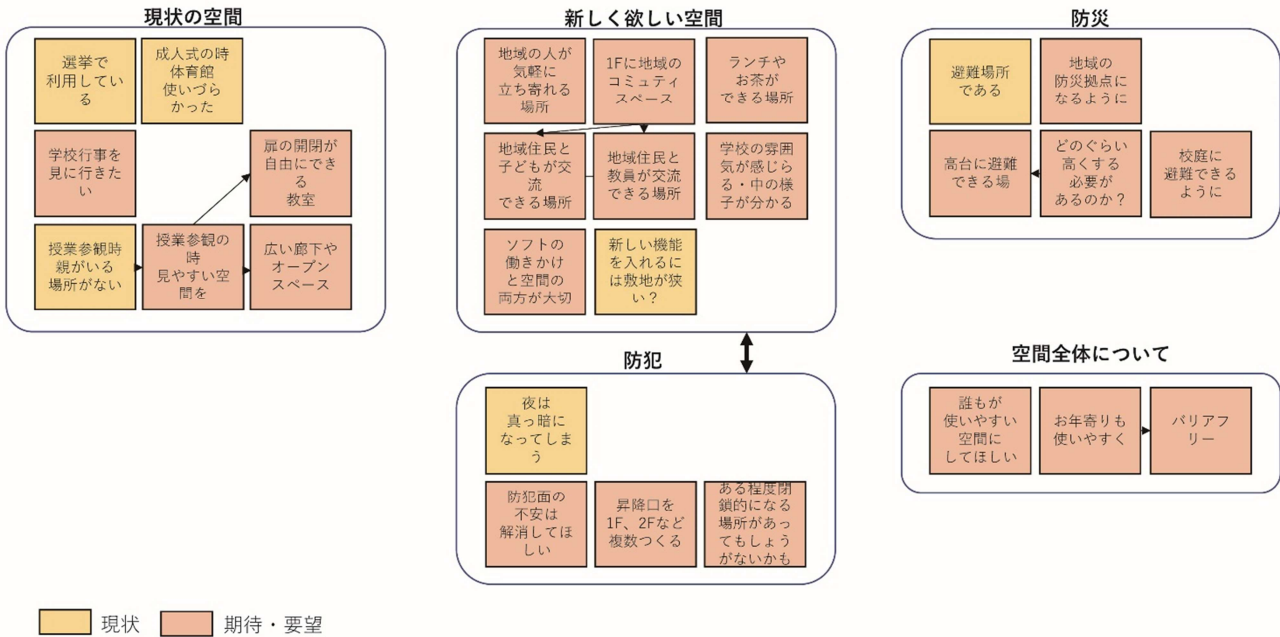
#### (1)-1 地域が学校にどの様に関わりたいか

「地域が学校にどの様に関わりたいか」をテーマにワークショップ形式で意見交換を行った。

○グループAの意見

### 1 「地域が学校にどの様に関わりたいか」

グループA

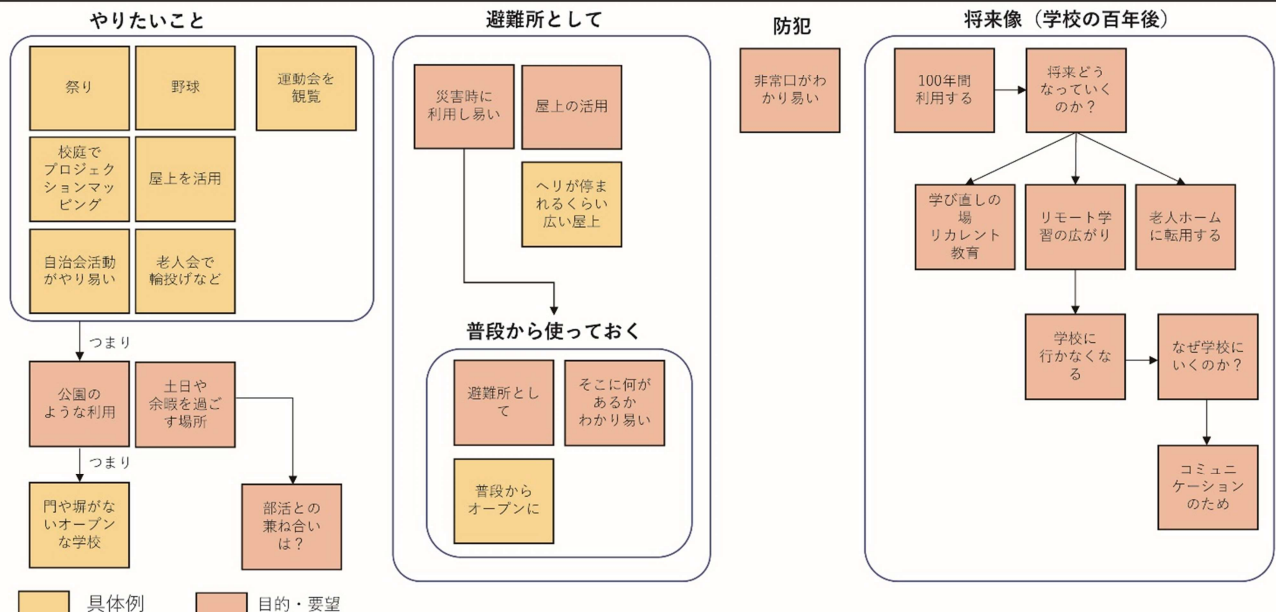


○グループBの意見

### 1 「地域が学校にどの様に関わりたいか」

グループB

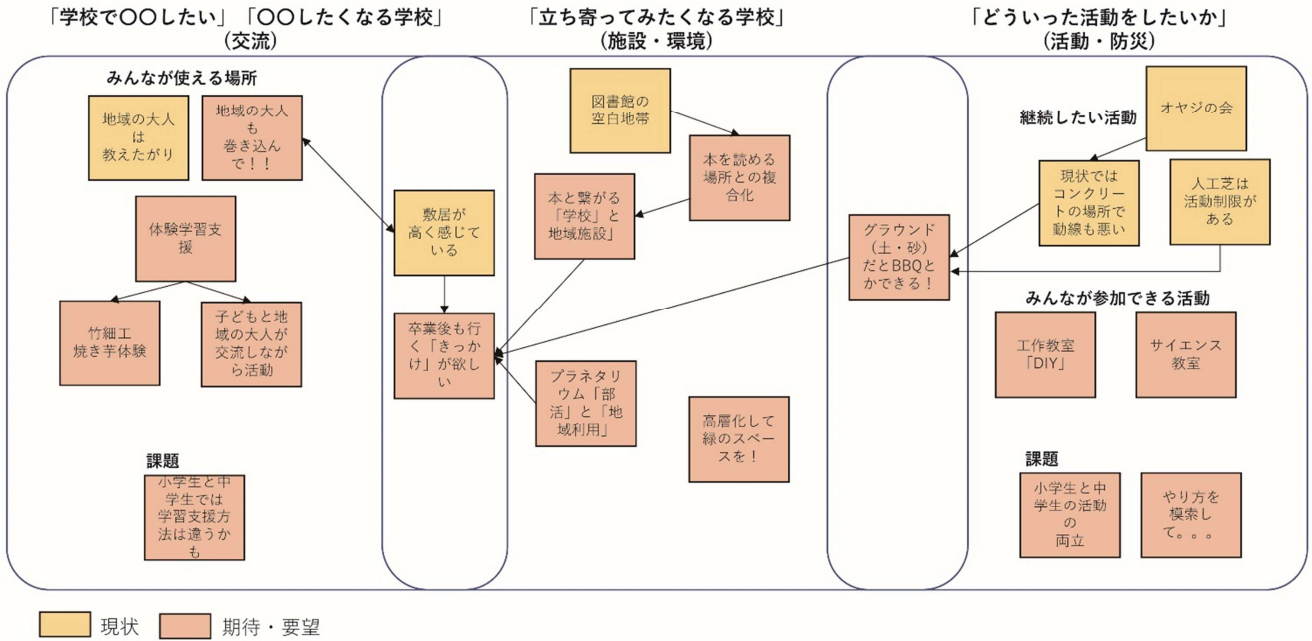
「学校で〇〇したい」 (交流) 「立ち寄ってみたいくなる学校」 (施設・環境) 「どういった活動をしたいか」 (活動・防災) 「その他」



○グループCの意見

1 「地域が学校にどの様に関わりたいか」

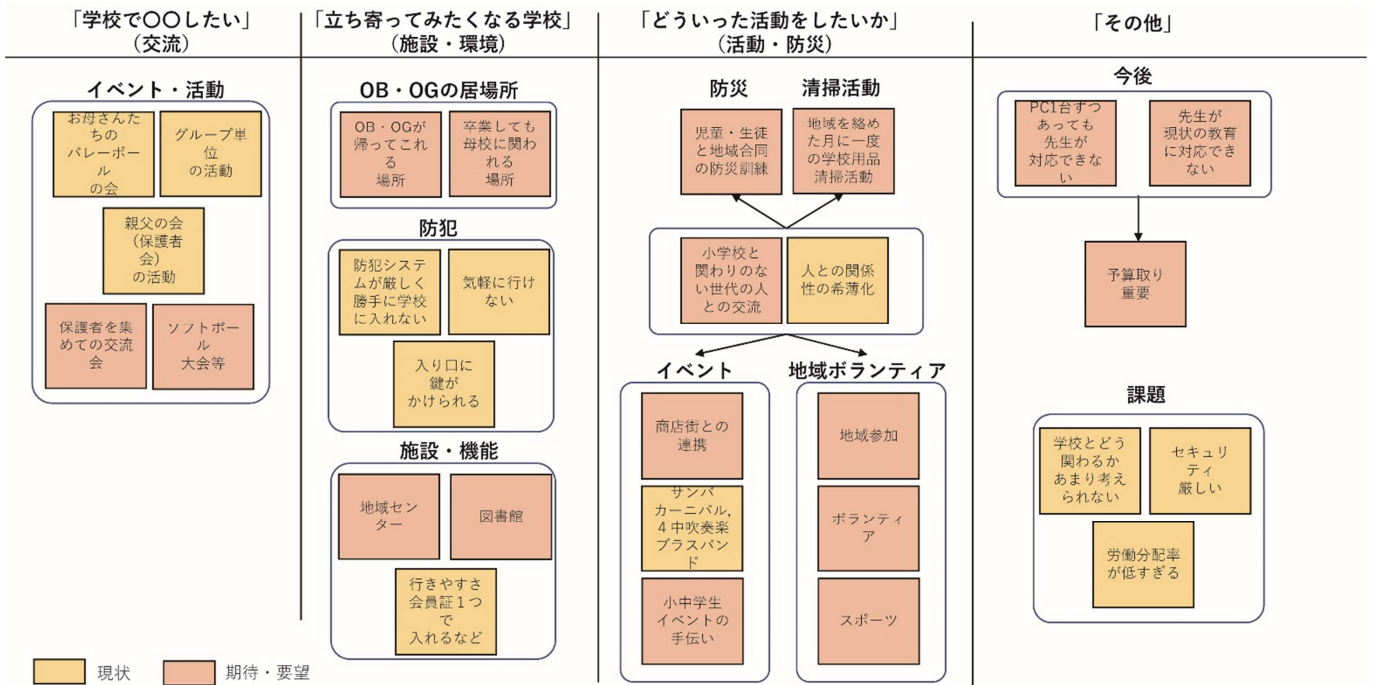
グループC



○グループDの意見

1 「地域が学校にどの様に関わりたいか」

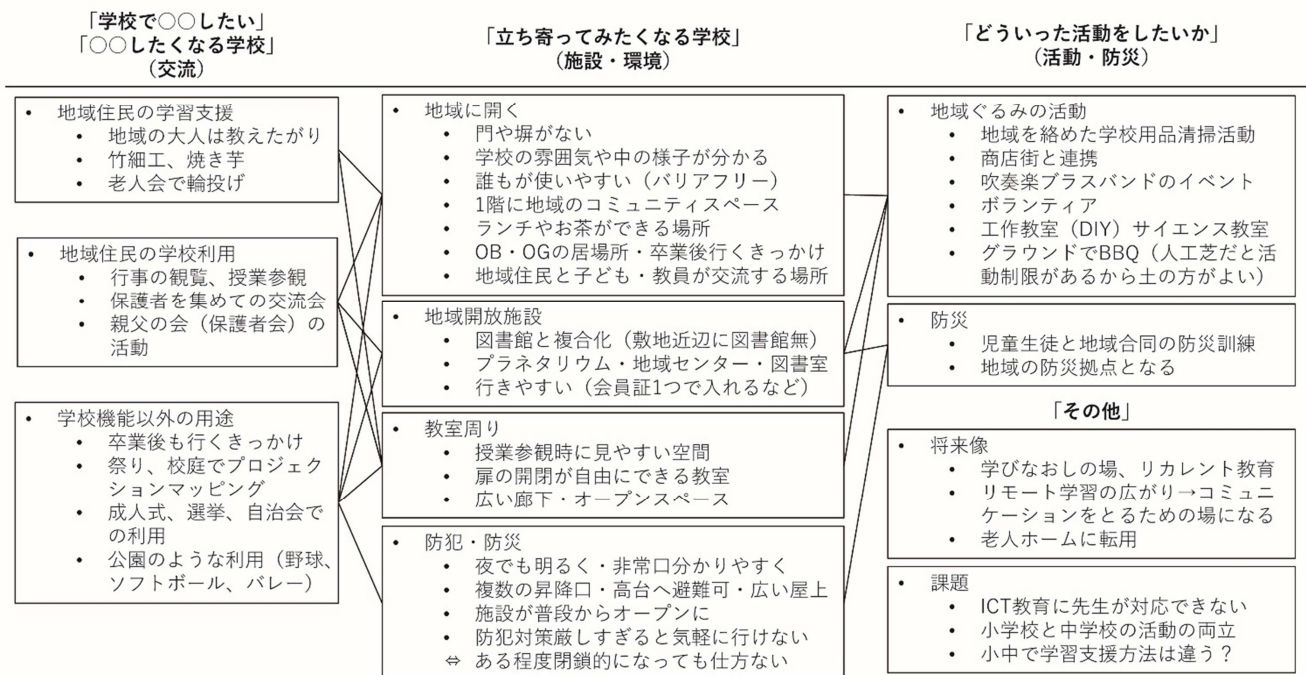
グループD



○各グループ出た意見のまとめ

4グループのまとめ

1 「地域が学校にどの様に関わりたいか」



地域の提言（2 ページ内容の再掲）

【地域交流について】

- 地域住民の学習支援の場として、竹細工や老人会での輪投げなど地域の大人が積極的に子供たちに教える機会が重要。
- 保護者を集めた交流会やおやじの会（保護者会）の活動が活発な地域なので、学校行事の観覧や授業参観など地域住民の学校利用しやすい施設が必要。
- 卒業後も学校へ行きっかけとして、スポーツなどで学校施設の一部開放が必要。

【立ち寄ってみたいくなる学校（施設・環境）】

- 学校の雰囲気や中の様子が分かる誰もが使いやすい学校。
- 地域/子ども/教員が交流する場所として、地域のコミュニティスペースがある学校。
- 周辺に図書館がないので、地域図書館と複合化した学校。
- 授業参観しやすい教室まわりとして、廊下と教室間をオープンにできる扉や、オープンスペースのある学校。
- 地域との連携などの活動状況が見える地域の顔となる学校。

【地域と連携した活動ができる学校（地域活動・防災）】

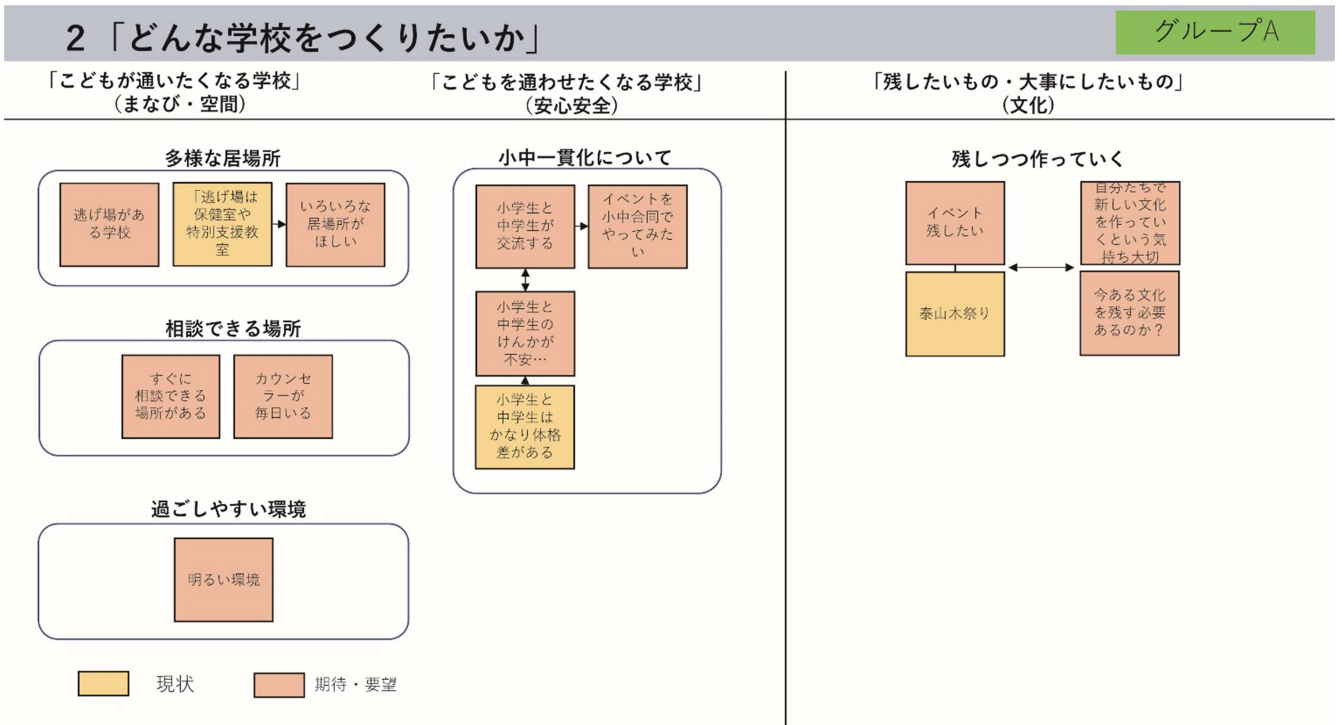
- 現在、生徒が行っている学校周辺の清掃活動を商店街と連携するなど、地域ぐるみの活動を生み出し、促進する機能を持った学校。
- 防災に対しての意識が高い地域であるため、防災拠点としてハードだけでなく、児童・生徒・地域合同の防災訓練等ソフト面の連携ができる学校。



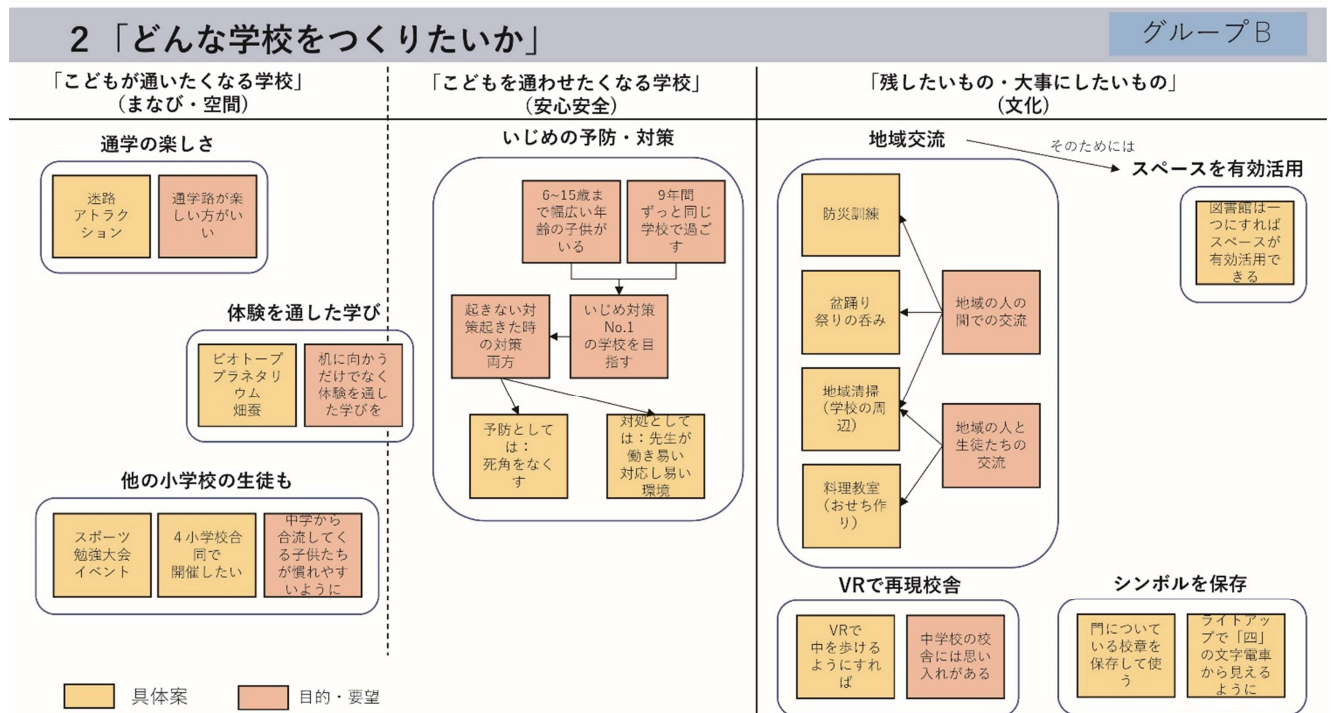
(1)-2 どんな学校をつくりたいか

「どんな学校をつくりたいか」をテーマにワークショップ形式で意見交換を行った。

○グループ A の意見



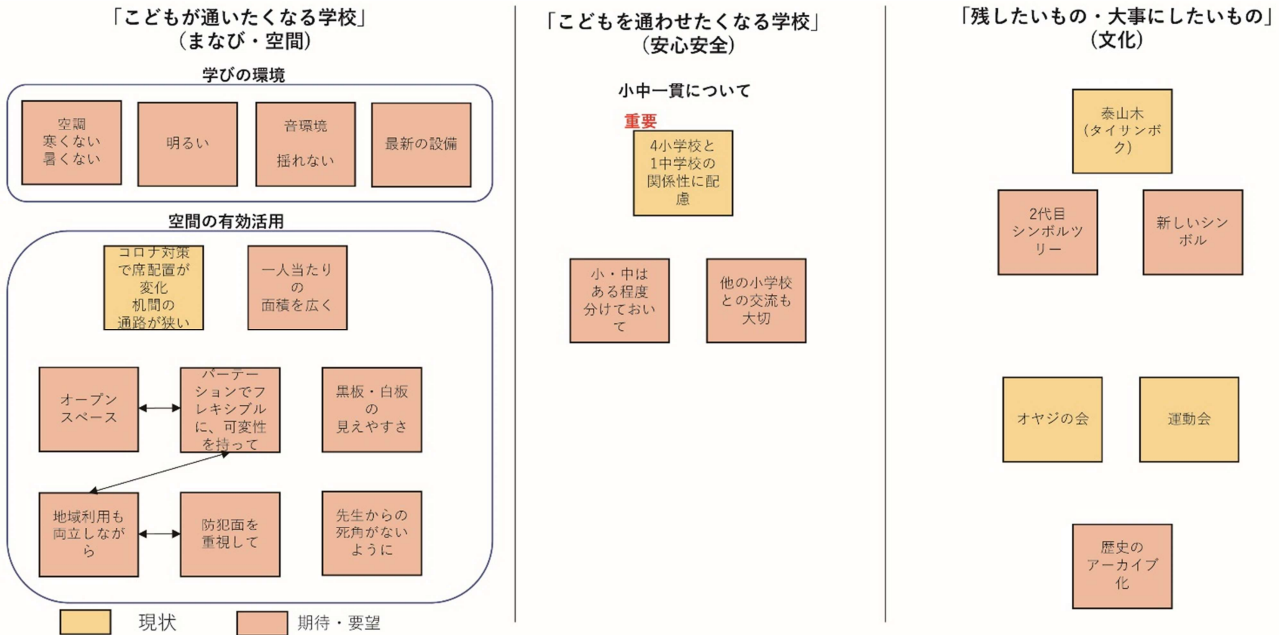
○グループ B の意見



○グループCの意見

2 「どんな学校をつくりたいか」

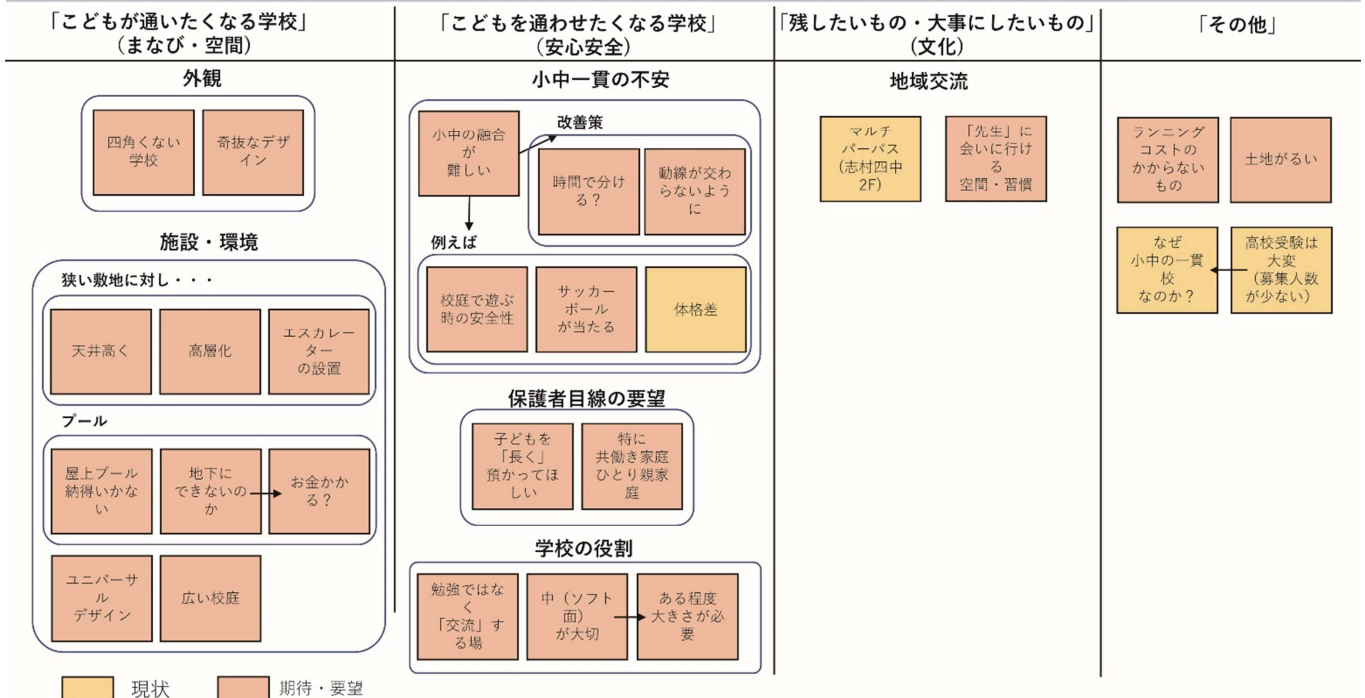
グループC



○グループDの意見

2 「どんな学校をつくりたいか」

グループD



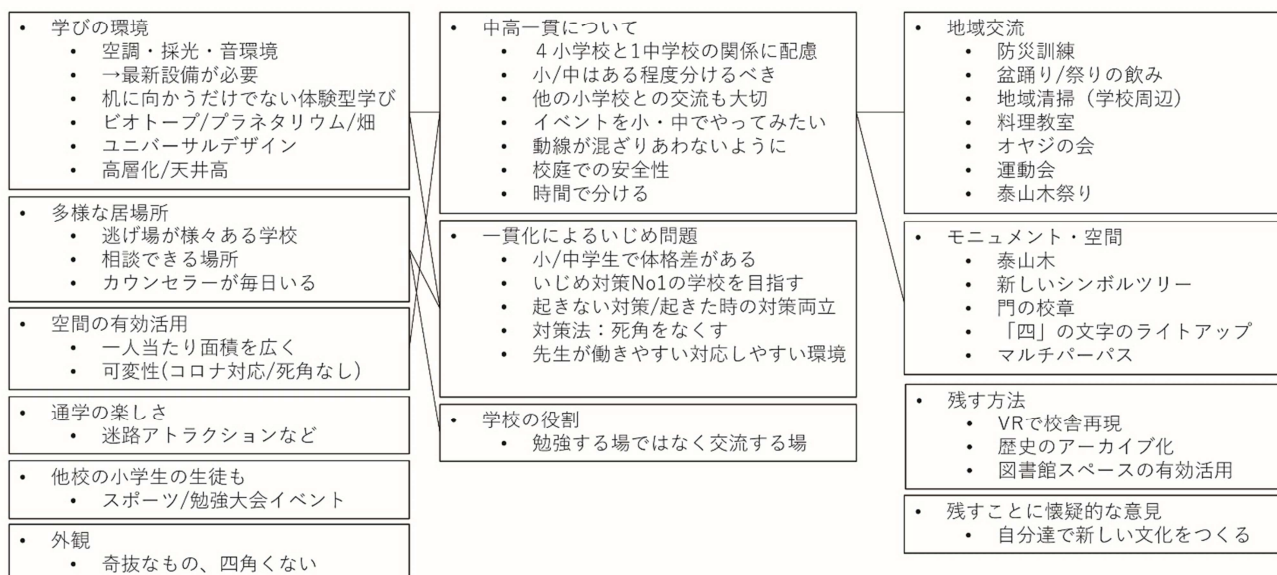
## ○各グループ出た意見のまとめ

### 4グループのまとめ 2 「どんな学校をつくりたいか」

「子どもが通いたくなる学校」  
(まなび・空間)

「子どもを通わせたい学校」  
(安全安心・防犯)

「残したいもの・大事にしたいもの」  
(文化・歴史)



### 地域の提言 (2 ページ内容の再掲)

#### [子どもが通いたくなる学校 (まなび・空間)]

- 小学校用、中学校用とするだけではなく、すべての児童・生徒にとって、多様な居場所や相談できる場所を校舎の屋内や屋外にも用意できる学校づくりが必要。
- 机に向かうだけでなく体験型の学び(ビオトープ・畑等)の環境の整備。
- 空間を有効活用し、児童・生徒1人あたりの面積を大きくし、可変性のある学習環境の整備。

#### [子どもを通わせたい学校 (安全安心・防犯)]

- 小中学生で体格差があるので、校庭での安全性や動線が重ならない配慮が必要。
- 開放感や視線の抜けがある学校。
- 死角を作らない空間づくりをすることで、いじめ対策 No1 をめざした学校。
- 先生が働きやすく子どもたちに対応しやすい環境の整備。
- 遊び場をはじめとする学童保育施設部分の配置は、とくに安全面での配慮が必要。

#### [学校で残したいもの・大事にしたいもの (文化・歴史)]

- 学校周辺の清掃などの文化。
- 泰山木や記念樹、門の校章など、モニュメントの展示スペースの設置。
- 卒業生や地域住民とのつながりを大事にするため、歴史のアーカイブ化やVRでの校舎再現など学校や地域の歴史を残す方法の検討が必要。



## (2) 第二回ワークショップ

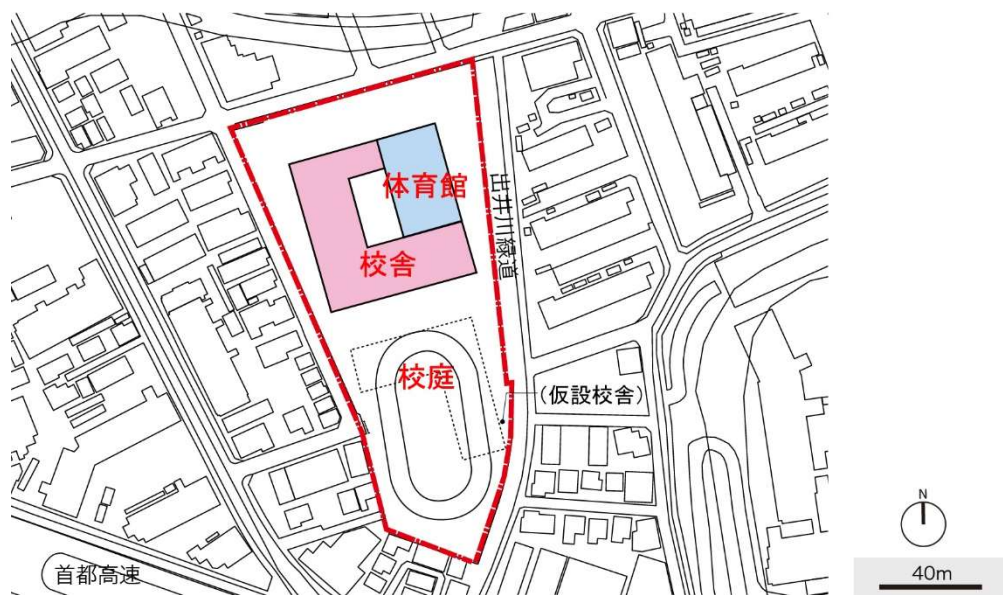
### 学校の配置について

志村小・志村第四中学校の敷地に対する法的条件や道路付けの条件整理を行った結果、以下のAからCの3案が考えられ、これらの3案に対しての「よいところ」、「気になるところ」などについて意見交換を行った。

※詳細については、P.17 **参考資料** 1 敷地条件の整理（基本構想・基本計画策定支援事業者による整理）を参照。

<建物配置案>

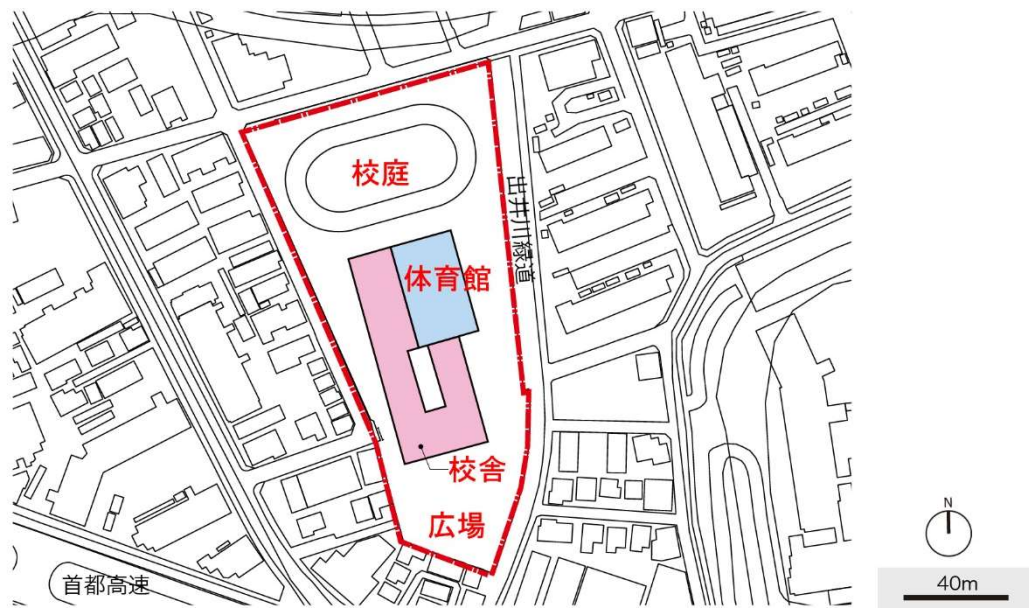
【A案】校舎・体育館棟を敷地北側に配置する案(6階建て)



【B案】校舎・体育館棟を敷地南側に配置する案(6階建て)



【C案】校舎・体育館棟を敷地南側に配置する案(7階建て)



○配置案の比較表

	A案 北側配置 (6階建て案)	B案 南側配置 (6階建て案)	C案 南側配置 (7階建て案)	
校舎配置イメージ				
学校環境	普通教室の日当たり	○ ・南側に遮るものがなく、良好 ・西側教室への採光の工夫が必要	△ ・西側教室への採光の工夫が必要	○ ・南側に遮るものがなく、良好 ・西側教室への採光の工夫が必要
	工事中の仮設校舎の必要性	△ ・仮設校舎で大半を過ごす生徒・児童がいる	○ ・仮設校舎の利用が無い	○ ・仮設校舎の利用が無い
	校庭の形、使いやすさ	△ ・まとまった校庭面積を確保 (小中一体であるが、範囲を区画する)	△ ・まとまった校庭面積を確保 (小中一体であるが、範囲を区画する)	○ ・校庭と広場を確保
	校庭の環境	○ ・日当たり良い	△ ・校庭が校舎の影になってしまう	○ ・北側校庭が校舎の影になってしまう ・南側広場は日当たり良い
周辺環境	近隣への影響(視線)	○ ・教室からの西側住宅への配慮が必要	△ ・教室からの西側住宅への配慮が必要	△ ・教室からの西側住宅への配慮が必要
	近隣への影響(日影)	△ ・北側道路に校舎の影が落ちてしまう	○ ・近隣に日陰で影響を与える場所は少ない	○ ・近隣に日陰で影響を与える場所は少ない
	近隣への影響(音・騒音)	○ ・体育館位置が現状と同様のため音・振動が問題になりにくい	○ ・体育館位置が現状より住宅地に離れるため音・振動が問題になりにくい	○ ・体育館位置が現状より住宅地に離れるため音・振動が問題になりにくい
	地域への開放性(車両の寄付き)	○ ・校舎体育館へ北側/西側道路からアクセスできる	○ ・校舎体育館へ西側道路からアクセスできる	○ ・校舎体育館へ西側道路からアクセスできる
まとめ	既存校舎と大きく変わらない構成。仮設校舎利用期間が発生するし、工事による学校・生徒への負担が大きい。	仮設校舎利用期間がなく、工事による学習環境の変化が少ないが、西側・南側近隣への配慮や校庭への日影の影響等課題が散見される。	校庭と広場が確保できることと、仮設校舎の利用期間がないことが大きなメリットとなる。他案と比較しても、最適と思われるが、西側近隣への配慮等の対応を要する。	



○各グループの意見

		A 案 北側配置 (6階建て案)	B 案 南側配置 (6階建て案)	C 案 南側配置 (7階建て案)	その他
校舎配置イメージ					
<b>キーワード</b> <b>学習環境</b> ◆校庭 ・形 ・使いやすさ ・日当たりなど ◆教室 ・日当たり ・眺望など	<b>よくなる</b> A B C D	● 工事中運動エリアが確保できる ● 既存校舎と大きさがあまり変わらない	● 仮設校舎が必要ないことがよい	● 広場があると分けて利用ができてよい ● 遊具を小中のサイズに合わせて計画可能 ● 仮設校舎が必要ないことがよい ● 南側住宅へ考慮して建物を配置している ● 緑道側に児童・生徒用の門が必要 ● 西側の校舎を少しでも低くし、窓の大きさを配慮してほしい ● 半屋外空間で式典など利用できるとよい ● グラウンド内で区画があるとよい	・ グランルーフ みたいな屋根下がほしい ・ 校庭を2階にして1階を駐車場にしたらよい
		<b>近隣環境</b> ・ 視線 ・ 日影 ・ 音 など	<b>気になる</b> A B C D	● 東側住宅にとっては西日を遮るのでよい ● 西側の校舎を少しでも低くしてほしい ● 西側住宅への日照権を配慮	
		● 工事中の引越しの負担が大きい ● 線路に近い、音が気になる ● 仮設校舎の利用期間が気になる ● 北側 / 東側に歩道と緑地が必要 ● 中庭を無くして校庭を大きく	● 家の前に大きな建物ができたら困る ● 校舎と周辺建物の見合いが気になる ● 校庭への日当たりが気になる ● 西側住宅への日照権が気になる ● 南側住宅地水はげが悪く、浸水履歴あり ● 北側グラウンドの湿気が気になる ● 正門の位置が今より遠くなるのでは	● 校舎と周辺建物の見合いが気になる ● 校庭への日当たりが気になる ● 西側住宅への日照権が気になる	
		● 校舎が北側電車で近く音が気になる ● 小中グラウンドが一体なのが気になる	● 校舎が南側高速に近く音が気になる ● 小中グラウンドが一体なのが気になる	● 校舎と周辺建物の見合いが気になる ● 校庭への日当たりが気になる ● 西側住宅への日照権が気になる ● 【体育館地下案】低層となり近隣へ配慮 ● 校庭と広場があるのがよい ● 北側道路が開放的で明るい雰囲気になる ● 【体育館地下案】低層となり近隣へ配慮	
				● 校舎と周辺建物の見合いが気になる ● 校庭への日当たりが気になる ● 西側住宅への日照権が気になる ● 【体育館地下案】体育館に避難ができない	

○意見まとめ

校舎の配置については、校庭と広場の大小2つの屋外活動スペースが確保でき、新校舎建設期間中も今の校舎を使えるC案に良好な意見が多かった。

A案の良さとしては、新校舎がメイン道路である北側道路に近いことで、地域連携の活動状況などの学校機能を地域へ見える化しやすく「地域の顔」になれることや、「学校の顔」となる昇降口がわかりやすいとの意見があった。

3案共通の意見として多かったことは、西側住宅への日影の影響を配慮し、西側に配置する建物はできるだけ高さを抑えることや、校舎からの視線対策、地階設置などの低層化の検討があった。

地域の提言 (3ページ内容の再掲)

[学校の配置について]

- ・ 校庭での安全性や動線が重ならない配慮として大小2つの屋外活動スペースを確保。
- ・ 工事期間中も、できるだけ通常時の教育環境に近づけるよう、運動場所の確保などに配慮。
- ・ 西側住宅へ日影が大きくなならないよう、建物西側はできるだけ高さを抑えるなどの配慮。
- ・ 校舎からの視線対策について検討。
- ・ 地階設置など低層化の検討。
- ・ 「地域の顔」となれるよう、学校機能の見える化を意識。
- ・ 昇降口へのアプローチのしやすさに配慮。

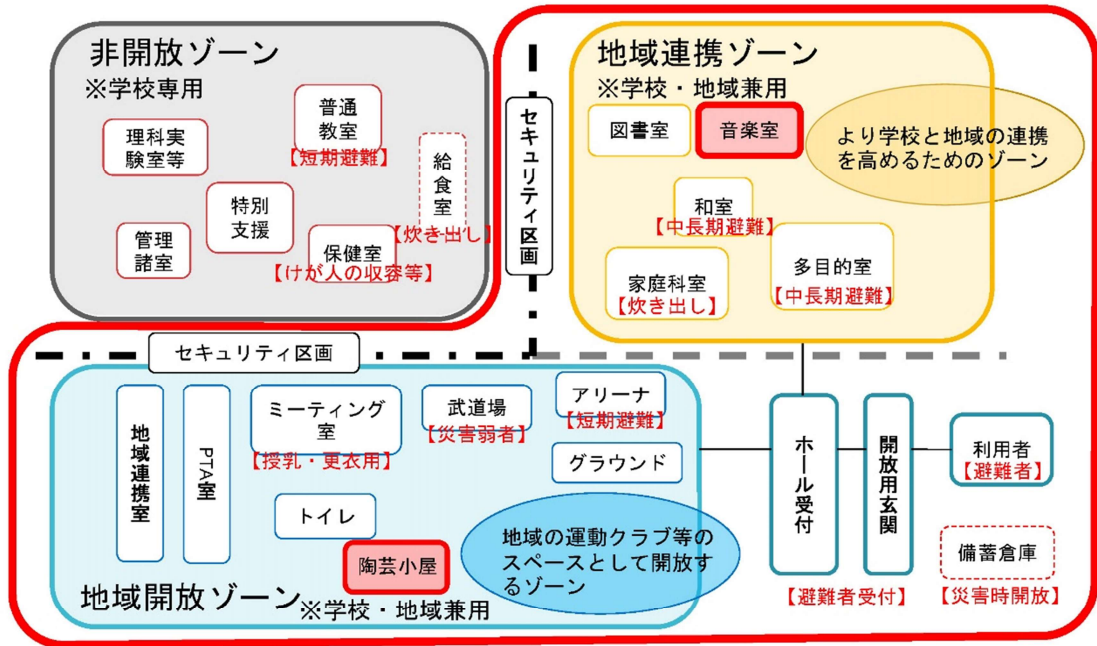
### (3) 第三回ワークショップ

#### (3) - 1 地域と学校が連携・協働する室

区が示す「板橋区立学校施設標準設計指針」の中で、地域と学校が連携・協働すべきと考えられる室を確認し、志村小・志四中の小中一貫型学校での連携・協働すべき室についての意見交換をおこなった。

### 地域と学校が連携・協働するゾーン構成案

【〇〇】...地震発生時に想定される使い方



※【〇〇〇】...地震時利用想定

### 地域の提言（４ページ内容の再掲）

#### [地域と学校が連携・協働すべき室について]

- ・「板橋区立学校施設標準設計指針」にて挙げられている室に加えて、音楽室についても検討し、地域開放する場合は、近隣への音の影響にも配慮が必要。
- ・放課後に部活動などで使用のない室については、地域開放できる可能性があるため配置に配慮が必要。
- ・地域と連携・協働を行う室及びスペースは、低層階に配置するなどのアクセス面に配慮が必要。
- ・現状、陶芸小屋を地域で利用しているので、設置場所含め配慮が必要。

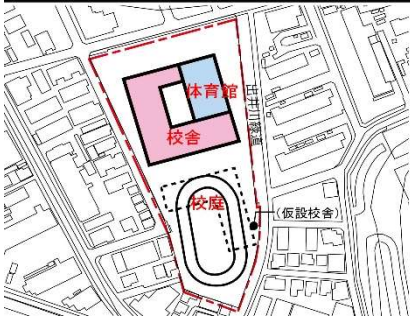


### (3) - 2 地域連携・協働ゾーンの配置と校地の利用

「地域開放ゾーン・地域連携ゾーン・学校運営ゾーンの配置とアプローチを考えよう」をテーマに、「学校の顔(入口)はどこに配置するのが良いのか?」、「地域連携・協働ゾーンへの動線は?」「避難所として体育館の配置はどの階が良いのか?」「地域開放・地域連携したい部屋は?」について意見交換をおこなった。

意見交換をしやすいよう、第2回ワークショップにて良好な意見が多かった配置C案を改善した案をベースに、平面ゾーニング案(下記イ案・ロ案)にて意見交換をおこなった。

#### A案 北側配置(6階建て案)



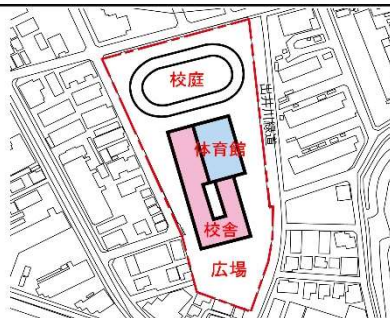
- A案の良い点**
- ・北側道路から校舎が近いことで、学校の顔となる昇降口や地域連携の様子など学校機能の見える化がしやすい

#### C案改善案にて検討

- ・東/南側に校舎を配置
- ・地域への顔づくりを検討



#### C案 南側配置(7階建て案)



- C案の見直し点**
- ・西側住宅への配慮
  - ・校舎との見合いを避ける
  - ・西側建物はできるだけ低く

○案の比較表

	イ案(校舎西側中央アプローチ案)	ロ案(校舎北側アプローチ案)
配置・平面・断面構成イメージ	<p>配置・平面イメージ</p>	<p>配置・平面イメージ</p>
動線としての使いやすさ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校庭・広場と昇降口が行き来しやすい。</li> <li>・小学生用(東側)と中学生用(西側)の入口を分けて設置しやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時、校庭への避難がしやすく校舎と連携がとりやすい。</li> </ul>
安全安心への配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正門近くに地域連携ゾーンがあって入口を見守りやすく、利用しやすい。</li> <li>・学校と避難所機能は明確に分けられるようにしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昇降口の入口が1か所なので、セキュリティがかけやすいが広さには注意が必要。</li> <li>・学校運営ゾーンがまとまっているので不審者が奥に入りづらい。</li> </ul>
学校の顔としてつくりやすさ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昇降口に開放感があってよい。</li> <li>・正門の前に昇降口があると、学校の顔をつくりやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昇降口が正門から遠く、学校の顔づくりに懸念がある。</li> </ul>

## 地域の提言（4ページ内容の再掲）

### [地域開放・地域連携について]

- 地域開放・地域連携ゾーンを1階に配置するなどし、非開放ゾーンとのセキュリティを明確に分けるような検討が必要。
- 小学校の音楽室を低層階に設置し、盆踊りの太鼓の練習など地域活動にも利用できるよう検討が必要。

### [アプローチについて]

- 児童・生徒が登下校する門は東西2か所必要。
- 災害時やイベント開催時を考慮して、北側道路から校庭への搬入用の門が必要であるが、セキュリティに十分配慮した検討が必要。
- 子どもが多くなるので、昇降口は小中学校用に分ける必要があると考える。学校側の考えも踏まえ、昇降口の大きさや配置を含め検討が必要。
- 地域連携ゾーンは、正門と近く、校庭などの屋外活動スペースと連携しやすい配置とする検討が必要。
- 災害時開放される部分は、校庭と連携が取りやすい配置とする検討が必要。

### [避難所として体育館の配置について]

- 浸水想定高さが3~5mとなるため、2階以上での配置の検討が必要。
- 車椅子利用者等の移動に対応できるよう、エレベーターを設置し、日常の運用方法を含め総合的な検討が必要。
- 学校機能と避難所機能は明確に分けられるよう配慮が必要。

### Ⅲ 参考資料

#### (1) 敷地条件の整理（基本構想・基本計画策定支援事業者による整理）

計画敷地において、

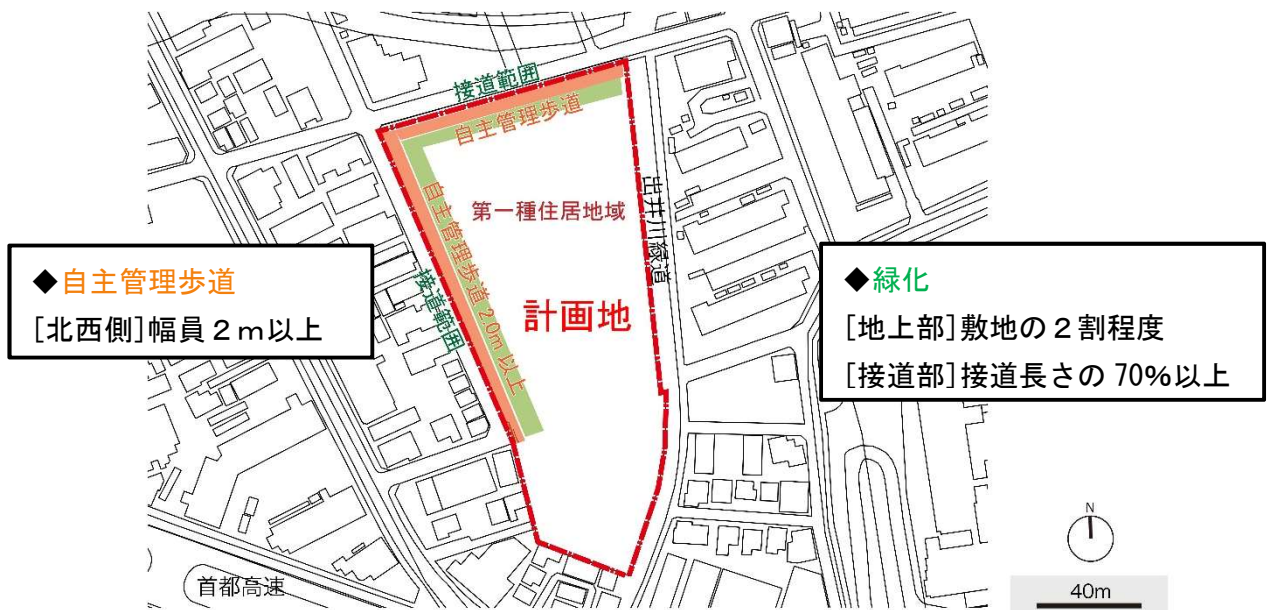
- ①車両動線
- ②条例等による制限
- ③建築基準法の日影規制等による形態制限

による整理を行った結果、A～C 案の3案が提案されました。

##### ①車両動線



##### ②条例等による制限





### ③建築基準法の日影規制等による形態制限

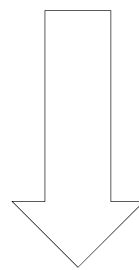


◆逆日影  
建物によって生じる敷地外の日影の制限  
⇒建物の高さが制限される



40m

※今後の詳細な諸官庁協議によって、与条件に変更が発生する可能性があります。



①～③における条件整理を行った結果、建物配置案A案～C案を提案

### <建物配置案>

【A 案】



- ・まとまった校庭を確保
- ・校庭に日影の影響が少ない
- ・仮設校舎が必要

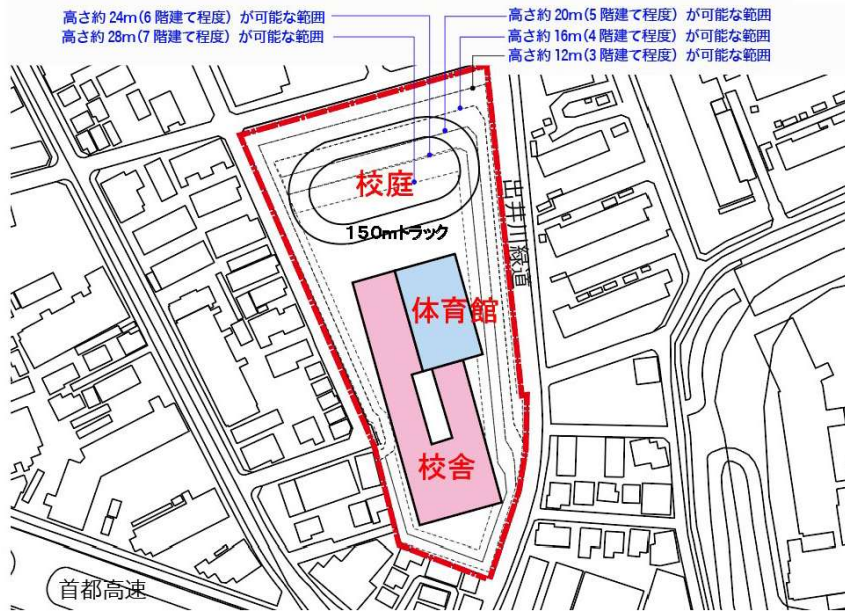
▼6階建て程度



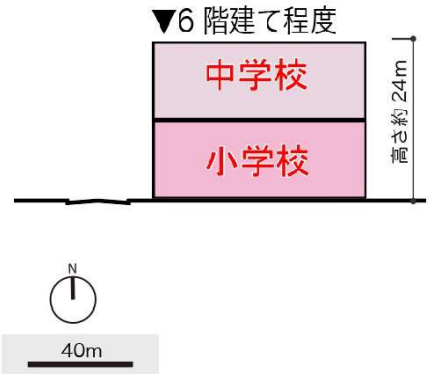
40m



【B 案】



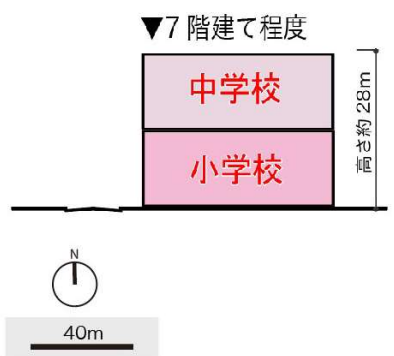
- ・まとまった校庭を確保
- ・校庭に日影の影響がある
- ・仮設校舎が必要なし



【C 案】



- ・校庭と広場を確保
- ・校庭に日影の影響がある
- ・仮設校舎が必要なし



## (2) 活動経過

- 令和3年10月8日 第四回設置検討会を実施  
基本構想・基本計画の目的、全体スケジュールをお伝えし、設置検討委員会の皆様に地域の意見集約として実施する「ワークショップ」への出席依頼と参加者の推薦をお願いしました。
- 令和3年12月13日 第五回設置検討会を実施  
学校施設の現状、ワークショップの目的・テーマ等の概要についてお伝えしました。
- 令和4年1月24日 第一回ワークショップを実施  
ワークショップのテーマ：「地域としてどのように関わりたいか、どんな学校を作りたいか」
- 令和4年2月15日 第二回ワークショップを実施  
ワークショップのテーマ：「建物配置を考えてみよう」
- 令和4年3月7日 第三回ワークショップを実施  
ワークショップのテーマ：「地域と学校のかかわり方」
- 令和4年4月26日 第七回設置検討会を実施  
ワークショップで出た意見を集約し、基本構想・基本計画への提言書をまとめました。

### (3) ワークショップの様子

#### 「第1回ワークショップ」

第1回ワークショップでは、改築プロジェクトのアドバイスをいただいている斎尾直子先生（東京工業大学准教授）と研究室の学生の皆さんをお招きして、学校づくりの先進事例等をご講義いただきました。その後、4グループに分かれ「地域が学校にどの様に関わりたいか」、「どんな学校をつくりたいか」をテーマに意見交換を行いました。



■斎尾先生から国内外の多様な学習空間の事例についてご講義いただきました。

#### 「地域が学校にどの様に関わりたいか」

- ・地域と子ども・教員が交流できるコミュニティスペースが必要
- ・地域の方が学校行事へ参加・観覧できる施設
- ・防災拠点としてハードだけでなく、児童・生徒・地域合同の防災訓練等ソフト面の連携など、地域と学校の関わり方について様々なアイデアが出ました。



■意見交換では、様々なアイデアが出ました。

#### 「どんな学校をつくりたいか」

- ・子どもたちの居場所となる小中連携の場
- ・安心安全でいじめ対策No1の学校をめざしたい
- ・学校周辺の地域清掃など大切な文化を残す
- ・歴史のアーカイブ化やVRでの校舎再現など、多様な学習空間や毎日通いたくなるような雰囲気づくり、残したい歴史や文化についてアイデアが出ました。



■グループの意見交換後には発表を行いました。

## 「第2回ワークショップ」

第2回ワークショップでは、始めに一貫校の建設地となる志四中敷地における計画条件（敷地の道路付け、建物高さの制限など）について確認しました。その後、グループに分かれ『建物の配置を考えよう』をテーマに、計画条件を踏まえた3つの案に対し、意見交換を行いました。

- ・A案：校舎・体育館北側配置（6階建て案）
- ・B案：校舎・体育館南側配置（6階建て案）
- ・C案：校舎・体育館南側配置（7階建て案）



■建設地にかかる様々な与条件を確認しました。

## 「建物の配置を考えてみよう」

- ・校庭と広場が確保できることが良い。（C案）
  - ・工事期間中も今の校舎が使えることが良い。（B・C案）
  - ・校舎がメイン道路から近く、学校の活動状況が見えやすくて良い。（A案）
- など、建物配置の各案に対し、様々な意見が出ました。

また、どの案に対しても共通して、

- ・グラウンド面積は現在と同等程度確保したい
- ・西側近隣に対して校舎からの視線や日影を考慮すべき

といった意見が出るなど、志村小・志村四中の建物配置において重要視すべき点が明確になったワークショップとなりました。



■各グループの意見交換後には発表を行いました。



### 「第3回ワークショップ」

第3回ワークショップでは、始めに地域と学校の関わり方について、板橋区の方針、地域と学校の開放・連携が想定される室とその構成案について説明を行いました。その後、「地域開放、連携ゾーン、学校運営ゾーンの配置とアプローチを考えよう」をテーマに、上記構成案に沿った2案を提示し、平面・断面の2つの視点から意見交換を行いました。

- ・イ案：校舎西側中央アプローチ案
- ・ロ案：校舎北側アプローチ案



### 「地域開放、連携ゾーンの配置と校舎へのアプローチを考えよう」

・校庭や広場への行き来しやすい。西側/東側から昇降口にアプローチしやすい。正門から昇降口が近く安心感がある。正門近くに地域連携ゾーンがあるのがよい（イ案）

・災害時に校庭との連携が取りやすい。校舎内のセキュリティが分けやすい(ロ案)

など、地域開放・連携ゾーンやアプローチの位置について、様々な意見が出ました。

また、どちらの案に対しても共通で、

- ・登下校用の門は2か所必要
- ・音楽室が開放できると良く、地域の利用しやすい低層階に設置してほしい

・体育館を上階に配置する場合は、車いす利用者等の移動にも対応できるようエレベーターが必要

- ・1階がすべて地域に開放という考え方もある

など、地域と連携・協働する学校づくりや避難拠点として必要となる機能について様々な意見・アイデアが出ました。



■各グループの意見交換後には発表を行いました。